

## ジフテリア破傷風（2期）予防接種を受けるまえに

- ◆接種年齢 : 11歳から13歳未満で  
(11歳の誕生日を迎えてから受けてください)
- ◆接種回数 : 皮下接種1回  
ただし、1期の接種回数が不十分な場合は自費で不足分の接種が必要となります。  
任意接種となりますので医療機関にご相談ください。
- ◆接種期限 : 13歳未満(13歳のお誕生日の前日)まで受けられますが  
なるべく早めにお受けになるようお勧めします
- ◆接種場所 : 市内指定医療機関
- ◆持ち物 : 母子健康手帳・予診票・体温計・筆記用具  
\*母子健康手帳を忘れた場合は接種できませんので必ずご持参ください。
- ◆費用 : 無料

**注意！** 野田市外に住民票をうつした場合、野田市の予診票を使って接種することはできません。必ず  
転出先の市区町村でご確認ください

☆接種の前に、この説明書をよくお読みになってください。

☆予診票に記入もれがあると接種できない場合があります。責任をもって記入してください。ボールペン等消えない筆記用具で記入してください。

☆病気で治療中や何らかの薬を飲んでいる場合は主治医に相談してから受けるようにしましょう。

☆予防接種は体調のよいときにお受けになり、お子様の体調がよくわかる保護者の方がお連れ下さい。

☆接種後は、母子健康手帳の予防接種記入欄を再度、ご確認ください。

★乳幼児期に接種したジフテリア百日せき破傷風(DPT)もしくは、ジフテリア百日せき破傷風ポリオ(DPT-IPV)(1期)で得られた免疫が低下するため、追加接種を行い免疫を高めることを目的とします。

### 【ジフテリアとは】

ジフテリア菌による細菌性呼吸器感染症です。

発熱・咽頭痛・頭痛・倦怠感・えん下痛などではじまり、鼻づまり・鼻血・かすれ声・呼吸困難・呼吸筋の麻痺などが続きます。適切な治療や予防接種によって重症になることはまれとなりましたが、死に至ることもある疾患として注意が必要です。

### 【破傷風とは】

けがをしたときに土の中にいる破傷風菌が傷口に入っておこります。必ずしも大きな傷の場合だけではなく、小さな傷からも感染することがあります。菌の毒素により、神経の麻痺や筋肉のけいれんを起こし、死亡する確率の高い危険な病気です。

自然感染による免疫は期待できない為、ジフテリアと一緒に免疫をつけておくことが大切です。

裏面に続く

## ★副反応について★

接種部位の発赤・腫れ・痛み等局所反応が最も多く、通常3～4日で消失します。ただし、腫れがひどい場合は接種部位を清潔にし、冷やして様子を見てください。硬結は縮小しながらも数か月残ることもあります。時に発熱（37.5～38.5度くらい）もあります。

なお、極めてまれに重大な副反応としてショック・アナフィラキシー様症状があります。

## ★こんなときは受けられません★

- ① 発熱しているとき。（接種会場で体温が37.5度以上ある場合）  
※平熱の高い人は主治医に相談してください。
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合。
- ③ このワクチンの成分により、アレルギーを呈する恐れが明らかな場合。
- ④ 以下の病気にかかった場合

麻疹（はしか）	治癒後4週間程度あける
風しん（三日はしか）・水痘（水ぼうそう）・おたふくかぜ等	治癒後2～4週間程度あける
突発性発疹・手足口病・溶連菌感染症・伝染性紅斑（りんご病）等	治癒後1～2週間程度あける

（いずれの場合も医師の診察で予防接種の適否が判断されます。）

- ⑤ その他、医師が予防接種を受けることが不相当と認めた場合。

## ★こんなときは受ける際に注意が必要です★

- ① 心臓病・腎臓病・肝臓病、血液の病気や発育障がいなどで治療を受けている場合。
- ② これまで予防接種で、接種後2日以内に発熱及び発疹、じんましんなどのアレルギーと思われる異常がみられた場合。
- ③ 過去にけいれんを起こしたことがある場合は、事前に主治医に相談してから受けるようにしましょう。
- ④ 過去に免疫不全の診断がなされている場合及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる場合。

## ★予防接種による健康被害救済制度について★

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

<問合せ先>

保健センター ☎04-7125-1188

関宿保健センター ☎04-7198-5011

